

## ブラジル流 楽しい店の開き方



街はクリスマスデコレーションに彩られる季節になりました。この時期になると思い出すのが、ブラジルで親しくなったガスタン家のことです。ガスタン家のおばあちゃんシベリと妹のソニア、シベリの娘のシンチアの三人は大のハンドメイド好き。作つたものをクリスマス前の二日間だけ自宅ショップを開いて販売しています。

キリスト教国家であるブラジルではクリスマスが最大のイベント。家族、親戚、友人、職場の同僚、学校の先生にまでプレゼントを渡します。だからこの時期、人々はプレゼント選びに大忙しになるのです。

刺繡やパッチワークを施したクロスやエプロンなど、ガスタン家の手作り作品は、値段が手頃で実用的。なりにより、ぬくもりあるプレゼントが購入できると、ご近所さんから重宝されています。自宅ショップを始めて十五年がたちますが、口コミが広がって今では毎年大盛況。三人が一

路面店をシェアして借りることにしました。

委託販売ではないので店番が必要ですが、作家同志で話し合い、交代で店番をしています。テナント料の負担も、店番の負担もシェアするスタイル。育児中でもこれならチャレンジできる方法ですよね。

ガスタン家も、パウラも自分が作ったものを「かわいい！」と手にとつてもらえる喜びが生きがいになつていてようでした。そして対面販売をとても楽しんでいました。ガスタン家の自宅ショップは一年に一度だととも、お客様との信頼関係は育まれるよう

年を通して入るようになりました。パウラは「お客様との会話の中から、新たなアイデアが生まれるよう

生き生きとした彼女たちの姿はブラジルから帰国してからもずっと心になつた」と話していました。

生き生きとした彼女たちの姿はブラジルから帰国してからもずっと心

には準備や後片付けなどの負担もありますが、それも一年に一度だけ。家族イベントとして大いに張り切り、楽しんでいる様子にこちらも楽しくなつたものです。

### ひとりでできなくても

私の子供がブラジルで通っていた学校のママ友達・パウラも、ものづくりが大好きな女性でした。美術学校出身の三児の母で、末っ子が幼稚園に入った頃から少しづつ制作を再開しました。育児の真っ最中で、制作にも販売にも時間が思うようにとれないことにジレンマがあるとも話していました。

そんな中で彼女が見つけた道は、シェアショップ。ハンドメイドのイベントなどで知り合つた十人程度のアーティストで、ゆつたりとした戸建ての

年かけて作った作品の数々は二日間でほぼ完売します。

生活している部屋を店として開放するのは準備や後片付けなどの負担もありますが、それも一年に一度だけ。家族イベントとして大いに張

り切り、楽しんでいる様子にこちらも楽しくなつたものです。

**文・写真**  
小宮華寿子  
二男一女の母で  
編集者。「ブラジルの手しごと」  
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と  
ワークショップの店「メルカジニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。

**イラスト・  
デザイン**  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆらゆれる北欧風手作りモビール」(ネコ・パブリッシング)を監修。

に残っていました。そもそも私は「店」をやってみたいという淡い憧れを、実は十年以上持つていました。しかし一人で店舗を借りる勇気もなければ、子育て中の私には何より時間が足りません。でもブラジルで出会つた彼女たちのように、やり方次第では、可能性があるのかもしれないと考えようになつたのです。

そして今年、私は自分の店を持ちました! 実現せずに終わると思つていた構想は、不思議な縁がつながつて、事態が急展開。続きは次回、お話をさせていただきますね。